

前中期経営計画(2020年度～2022年度)の振り返り

前中期経営計画の3年間は、新型コロナウイルス感染拡大やサプライチェーンの混乱、地政学的リスクの増大など不透明な経営環境が続きました。一方で社会的課題解決につながるスマート社会の進行が加速し、先端投資が活発に行われました。

ULVACはスマート社会の実現・低消費電力化などの技術革新をビジネスチャンスと捉え、「成長に向けた開発投資」と「体質転換による利益重視の経営」を基本方針に掲げて取り組みました。

半導体分野では、技術革新に対応した製品開発力を強化するとともに、世界のリーディング企業との最先端技術の共同開発を推進しグローバル開発体制を構築した結果、最先端ロジックの量産工程で採用され、他工程での採用も拡がり始めました。その他の分野でも、パワーデバイスやオプトデバイス、EV用バッテリー等、活発な投資を背景に成長ドライバーにおける売上高は当初計画を大きく上回りました。更に安定基盤ビジネスであるコンポーネントとマテリアルも着実に成長しました。

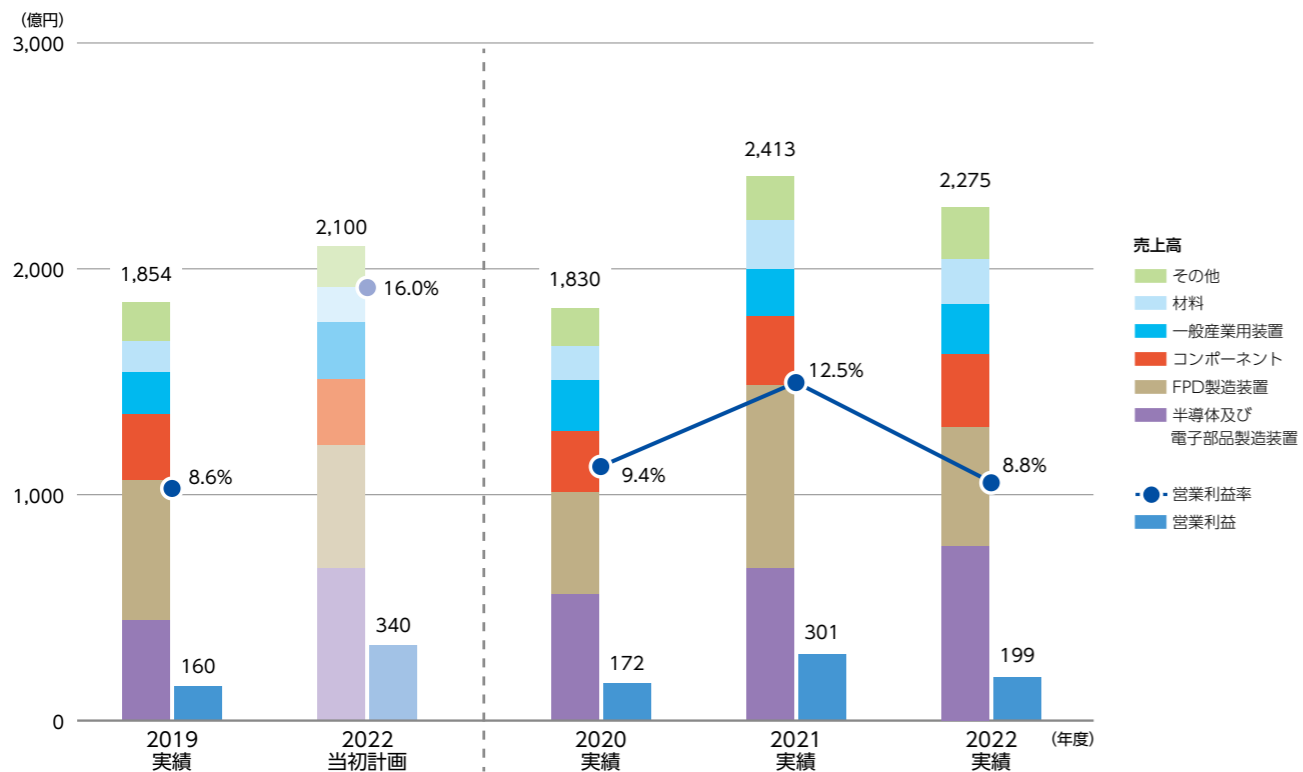
モノづくり力強化については、「技術・設計」、「購買」、「生産工程」の一体改革に取り組みました。技術・設計ではモジュラーデザインの思想を取り入れ、製品の共通化・標準化を推進しました。購買においては、グローバルサプライチェーンの再構築により調達コスト削減に努めました。生産工程の改革では、生産拠点の専門化と製造生産性の向上に取り組みました。

グループ経営効率の強化については、国内製造子会社2社をアルバックに統合し、また海外においても子会社統合を行い、グループ一体となったビジネスユニット経営を推進しました。

経営基盤の強化については新人事制度の導入、生産性向上に向けた各種システムの整備などに努めました。また、自己資本を着実に積み増し、財務安定性を確保しました。

こうした様々な取り組みの結果、売上高は当初計画を上回り、特に半導体・電子デバイス分野で大きな成果がありました。一方、市場環境の急激な悪化や調達部品の長納期化等により、利益面では当初計画未達となりました。

売上高・営業利益・営業利益率の実績



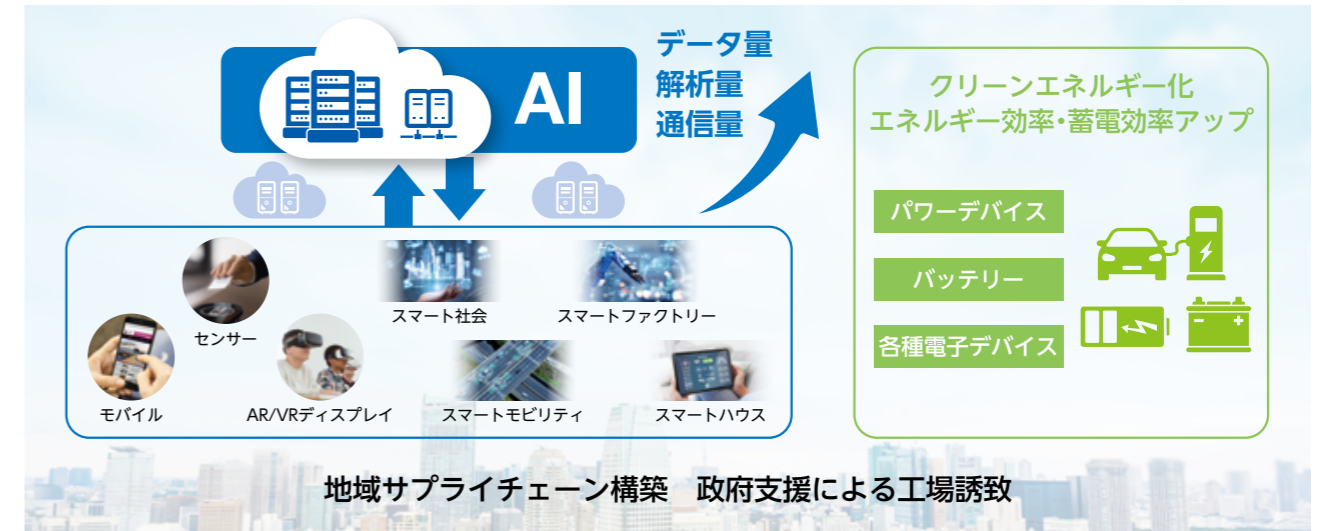
新中期経営計画(2023年度～2025年度)

外部環境

スマート社会実現に向けたデジタル化の促進やメタバース、生成AI等の実現には、データ量・解析量・通信量も飛躍的な増加が見込まれます。これに伴い、大量のサーバやセンサー、各種デバイス等が必要となり半導体需要は更に拡大しますが、非常に大きな電力が消費されます。

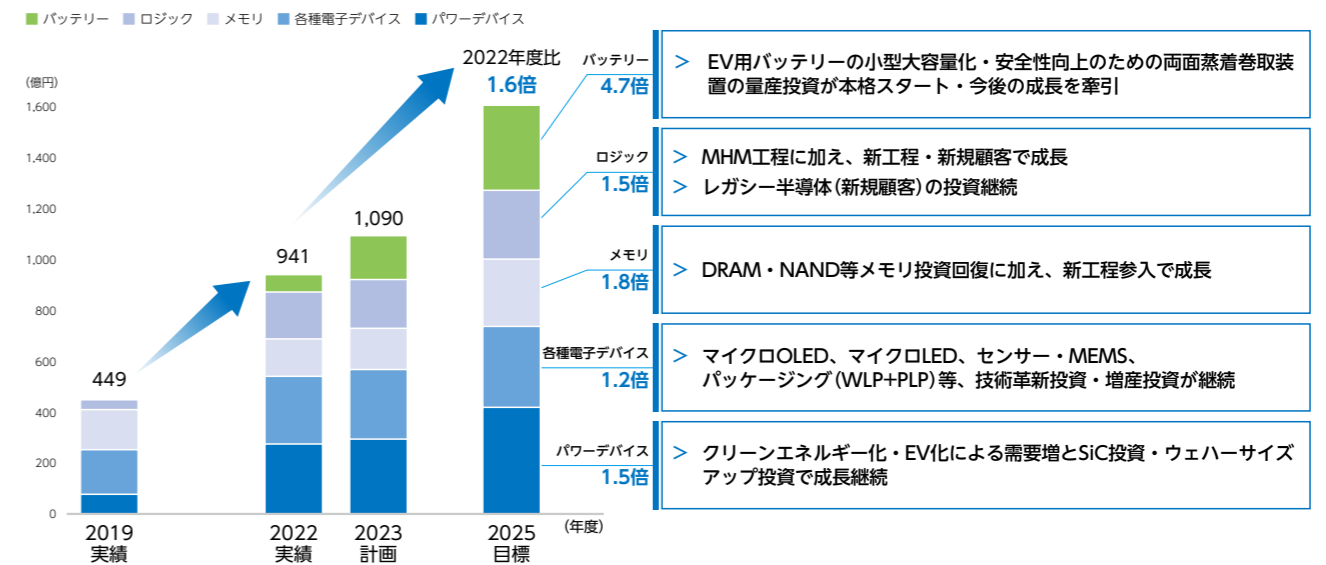
一方、大きな電力消費を抑えるためのクリーンエネルギー化への対応も必要で、パワーデバイスの効率性向上や半導体の微細化、各種電子デバイスの省エネ化、EV用バッテリーの長寿命化等が求められます。

また、近年は地政学リスク対応等の観点や地域サプライチェーン構築に伴う投資が継続的に拡大しています。



ULVACは大きな成長が期待される半導体・電子デバイス分野及びEV用バッテリー分野を中心に注力し、お客様の多様なニーズに応えるとともに、社会的課題の解決に貢献することで、ビジネスチャンスを拡大していきます。

成長事業の受注計画



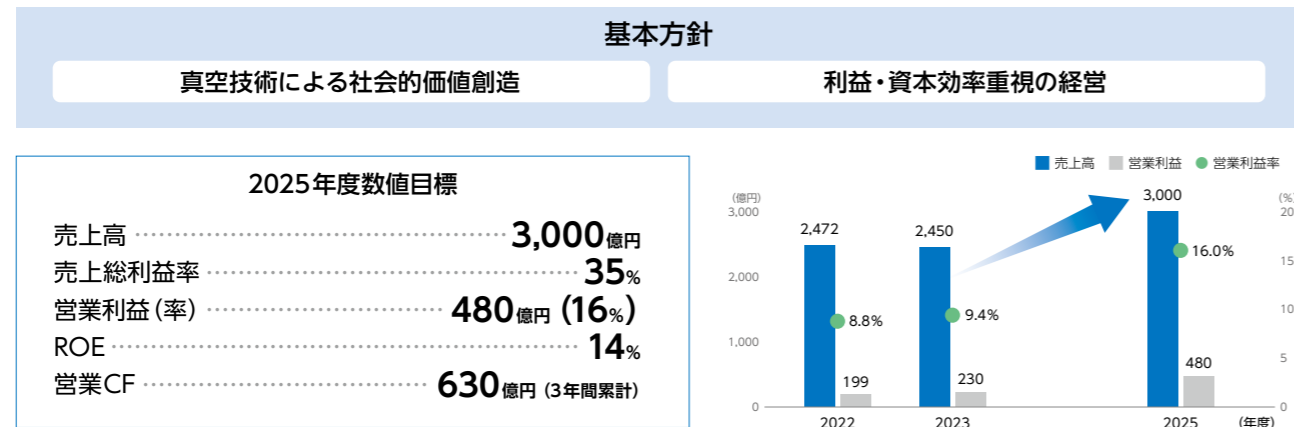
新中期経営計画の骨子

新中期経営計画では、「真空技術による社会的価値創造」と「利益・資本効率重視の経営」を基本方針に掲げました。

この実現に向けて、中長期的な成長が見込まれる半導体・電子デバイス分野における事業強化を更に進め、製品競争力向上のための開発投資も拡充します。

また、グローバル生産性向上についてはモノづくり力の一層の強化を図るとともに、売上高目標3,000億円達成のための生産体制構築にも努めます。

こうしたULVACの成長に必要な開発投資資金の確保や外部環境変化への迅速な対応を実現する強固な財務基盤構築、人的資本の強化等に注力し、経営基盤の更なる強化を図ります。



成長事業における製品競争力の強化

半導体・電子装置事業の拡大

半導体製造装置事業

先端ロジックにおけるULVACの技術力やULVACがお客様から採用された製造工程の実績をもとに、メモリー及びレガシー半導体分野においてもULVACがその製造工程での採用を獲得することを目指し、更なる拡販活動を強化し、事業拡大に努めます。

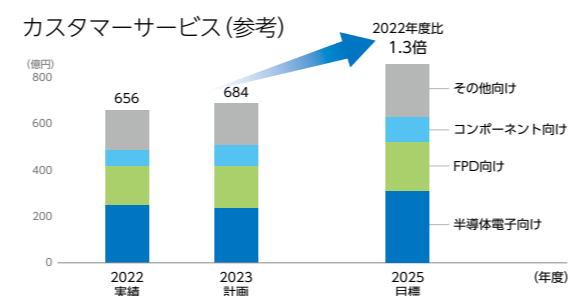
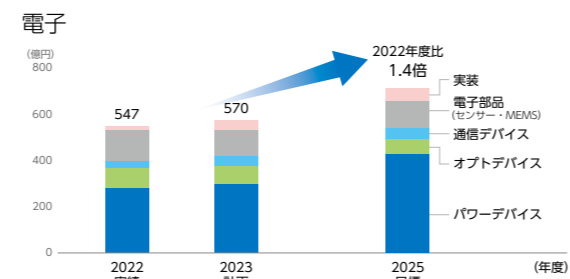
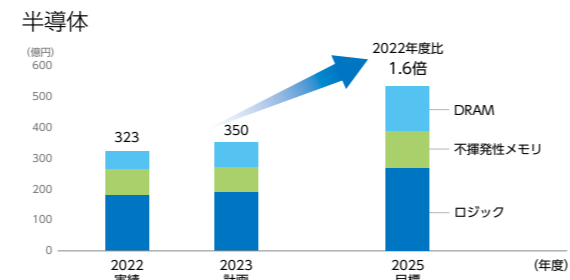
電子部品製造装置事業

ULVACが注力する主要5分野(パワーデバイス、オプトデバイス、通信デバイス、電子部品、実装)において、ULVACの主力製品の性能や納期等の側面における差別化を目指し、更なる拡販活動を強化し、事業拡大に努めます。

カスタマーサービス事業の強化

製品ライフサイクル全体をカバーすることをULVACにおけるビジネス機会と捉え、ULVACが特に注力すべき地域におけるサポート体制の強化やULVACからお客様に対する提案型での既存装置の改良や改善といったビジネスの推進を目指すことで、更なるULVACの総合的なサービス強化を図ります。

受注見通し



■ 共創によるイノベーションの推進

詳細 [▶ P.19](#) ULVACの強み

新中期経営計画では、研究開発設備投資と研究開発費を合わせて3年間で総額750億円の投資を計画しています。半導体、パワーデバイス、バッテリー等、今後も成長が見込まれる分野に集中投資する予定です。

また、各分野における世界のリーディング企業、大学等との最先端技術の共同開発を推進することで、技術革新に対応した製品開発力を強化し、併せてグローバル開発体制の強化に努めます。

来年竣工予定の韓国のTechnology Center PYEONGTAEKは、半導体関連のお客様の近くで製品・技術開発を加速し、コラボレーションと技術サポート強化を推進します。

グローバル生産性の向上

3,000億円の生産体制構築と利益率向上に向け、モノづくり力強化とこれを支える情報システム基盤を強化し、売上総利益率35%を目指します。

■ モノづくり力強化

製品企画力強化

ULVACにおける各ビジネスプロセス(開発、営業、技術設計、購買・製造等)の連携を強化し、製品のモジュール化、標準化を更に推進し、製品企画力強化に努めます。

戦略購買力強化

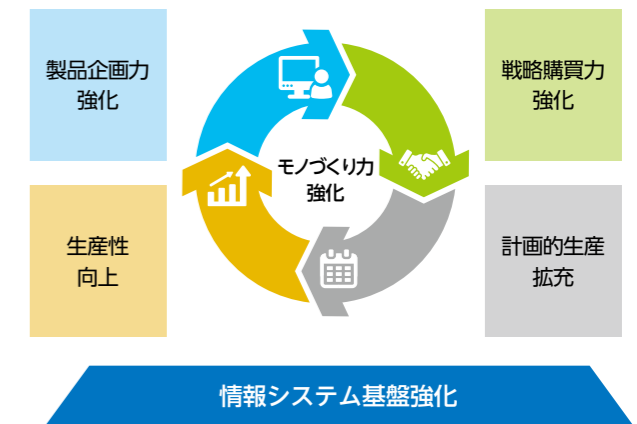
キーサプライヤーとの連携を強化し、製品の計画的生産に対応した戦略購買力の更なる強化を進めます。

生産性向上

製品毎の最適拠点での生産を進めるとともに、ULVACにおける事業間の経営資源の再配分を柔軟に行うことで、更なる生産性の向上に取り組みます。

計画的生産拡充

半導体、パワーデバイス、バッテリー用装置等で計画的生産を拡充するとともに、引き続きリードタイム短縮を進めます。



■ 情報システム基盤強化

効率的な生産を更に推進するために業務プロセスの見直しを実施するとともに、各種情報システムの導入等、デジタル化を進めることで、生産性の更なる向上を図ります。

経営基盤の強化

■ ESG経営の強化

- ULVACの事業活動におけるCO₂排出の削減に継続して取り組むとともに、気候危機等の社会的課題の解決に貢献する環境配慮型製品の更なる開発と拡販に努めます。
- ULVACのみならずULVACの取引先といったステークホルダーに至るまで、当社の推進する人権に配慮した事業運営についての理解を共有するとともに労働環境をはじめとする人権尊重の更なる実現を目指します。
- ULVACの持続的な成長を実現するために、より実効性、透明性の高い経営体制強化に取り組むことにより、コーポレートガバナンス体制の更なる維持強化に努めます。

■ 財務基盤の強化、キャッシュ・フローマネジメントの強化

ULVACの更なる成長に向けた十分な開発投資資金を確保し、外部環境変化への迅速な対応を実現する強固な財務基盤の構築を更に進めるとともに、キャッシュ・フローマネジメントの更なる強化により、資本効率の一層の改善に努めます。

■ 人財経営の推進

ULVACにおいて多様な人財が活躍できる環境を整備することで、従業員エンゲージメントを高めるとともに、次世代リーダーとなる中核人財の育成プログラムを再構築することで、ULVACの人的資本の更なる強化を図ります。